

学科目群は基礎科目群、教養科目群、専門科目群からなっている。

卒業するためには表1のように単位を修得しなければならない。表1の単位数はそれぞれ卒業に必要な最低単位数である。

表1-1 日本文化学科

学 科 目 群	卒 業 最 低 必 要 単 位 数						備 考
	必修	選択必修	選択	小計	自由選択	合計	
基 礎 科 目 群	基礎科目	8			25	23	124
	英語科目	4	8				
	第二外国語科目 (その他古典日本語)						
	スポーツ科目						
	キリスト教関連科目		4				
	キャリア教育科目	1					
	地域学						
	サービスラーニング						
	海外研修						
	教 養 科 目 群	人間理解への基盤を学ぶ		8 *1			
社会理解への基盤を学ぶ							
自然理解への基盤を学ぶ							
専 門 科 目 群	学科基礎科目	14	10*2	34	68		*2 うち 6 単位はA群、4 単位はB群から選択必修 *3 特殊講義の中から 1 科目 4 単位以上選択必修
	文化論・比較文化系						
	文学・語学系		4 *3				
	歴史・思想系						
	応用科目						
	修了科目		2				
演習科目	4						
教 職 関 連 科 目							*4 教職関連科目は卒業要件の外
合 計	31	36	34	101	23	124	

*4 ただし、「11 資格取得について」(P. 187 ~) に挙げる特定の科目を教職課程履修者が履修する場合は卒業要件単位に充当することができる。

表1-2 日本文化学科 留学生

学 科 目 群		卒 業 最 低 必 要 単 位 数					備 考		
		必修	選択必修	選択	小計	自由選択		合計	
基 礎 科 目 群	基礎科目	8			27	31	124	語学科目の履修方法は P. 177～180参照 *1入学時に、日本語通常前 期と判定された留学生の場 合	
	日本語科目	10*1							
	英語科目		4						
	第二外国語								
	古典日本語								
	スポーツ								
	キリスト教関連科目		4						
	キャリア教育科目	1							
	地域学								
	サービスラーニング								
海外研修									
教 養 科 目 群	人間理解への基盤を学ぶ		8*2		8			*2 2 領域 8 単位以上選択必修	
	社会理解への基盤を学ぶ								
	自然理解への基盤を学ぶ								
専 門 科 目 群	学科基礎科目	14	10*3	24	58			*3 うち 6 単位はA群、4 単位 はB群から選択必修 *4 特殊講義の中から 1 科目 4 単位以上選択必修	
	文化論・比較文化系		4*4						
	文学・語学系								
	歴史・思想系								
	応用科目								
	修了科目		2						
演習科目	4								
教 職 関 連 科 目									
合 計		37	32	24	93	31	124		

1. 用語の説明

卒業要件 = 卒業するために必要な条件

必修 = 当該科目の履修が卒業要件となっているもの。

選択必修 = いくつかの授業科目の中から一定単位履修することが卒業要件となっているもの。

選択 = 卒業に必要な単位数として数えられるが、「必修」でも「選択必修」でもないもの。

開講期 = 春：春学期に開講される科目

秋：秋学期に開講される科目

通年：1年を通じて開講される科目

集中：通常期間外に学外実習をおこなう科目

○印：週1回授業

◎印：週2回授業

対象学年 = 科目を履修することができる年次が記されている。1年次生では2年次以上に配当されている科目の履修はできない。2年次生以上は原則として1年次生配当の科目を履修することができる。

人数制限科目 = 履修希望者が集中した科目について、人数制限をする。

ステップアップ = ローマ数字が記載されている科目は、ステップアップ科目と呼び、Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順に履修しなければならない。

2. 科目ナンバリング

本学では「**科目ナンバリング**」を導入している。

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や履修順序、科目間の連携等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことで、学生が科目の水準や専門性に応じて、適切な授業科目を選択する際の助けとなる。

ナンバリングは「**科目分類(略称)**」、「**学科コード**」、「**段階を表す番号**」の**組み合わせ**で表記される。

(例) **ECON-P-100**

番号…科目の段階 [100番台：入門, 200番台：中級, 300番台：専門, 400番台：専門上級, 500番台：大学院] (P.18参照)

学科コード…政治経済：P, 欧米文化：A, 日本文化：J, 児童：C, 心理福祉：S, その他：0

科目分類…科目分類の略称
(例) ECON：ECONOMICS (経済学) の略 (P.17・18参照)

科目ナンバリングは、学生要覧カリキュラム表やシラバスに記載されている。

3. 学科基礎科目A群(選択必修)の履修について

「学科基礎科目」の中の「**選択必修A群**」にある科目は原則として1・2年生のうちに履修すること。ただし留学生はこの限りではない。

4. 各学期において履修できる単位数は、20単位を目安とし24単位を上限とする。

ただし、認定科目 (P.209「単位認定について」参照) や資格課程の一部の科目は上限単位に含まれない。

5. 以下の科目に関しては、履修条件に注意すること。また、事前にガイダンスに出席し、所定の手続きを行うこと。

- ① 「韓国文化演習」は夏季休暇中に実施される。夏季休暇中に実施の場合は、同年度秋学期開講科目として取り扱われる。成績は各々の開講期に処理、記録されるが、各学期の履修上限には含まれない。また「韓国語」と「文化交流史（アジアと日本）」を併せて履修することが望ましい。
- ② 「日本の芸能・工芸A・B」は春学期に履修登録を行い、その単位数は春学期履修上限内に含まれる。夏季休暇中に講義が行われるものもあるため、成績は秋学期履修科目と同時に処理、記録される。

6. 自由選択科目について

卒業に必要な最低単位数124単位から、基礎科目群の最低単位数25単位（留学生は27単位）、教養科目群の最低単位数8単位および専門科目群の最低単位数68単位（留学生は58単位）を除いた23単位（留学生は31単位）を自由選択科目と呼ぶ。これは、基礎科目群、教養科目群、専門科目群、他学部・他学科の専門科目群のいずれかから履修してもよい。教職課程履修者は、特定の教職関連科目群からも履修できる。

7. 以下の科目に関しては、クラスが指定されているので、確認の上履修すること。

キリスト教概論A・B、基礎教育入門（書き方）・（話し方）、英語科目、情報基礎、キャリアデザイン、文章表現法

8. 「ライフデザイン・良く生きるA」「ライフデザイン・良く生きるB」「日本文化概論」について

これらの科目は1年次必修である。4年間の学びの計画ならびに卒業後の進路を視野に入れた人生計画について、早い段階でこれを意識することを目的としている科目であるから、1年次に履修を完了していることが強く求められる。